

具体例に学ぶ

e法務ソリューション

デジタル訴訟社会を生き抜くために

text by

佐々木隆仁

AOS Technologies 代表取締役社長

▶ eLaw.jp

vol.

3

事故前提の対応で
訴訟コストを削減する
転ばぬ先のログ管理ソリューション消されたデータこそが
重要

仕事から、たくさんの弁護士の方にお会いします。ディスクバリーについて、ご質問を受けることが多いのですが、逆に、これまでeディスクバリーをやってこられた方にお話を聞きまして、驚いたことがありました。

これまで日本で行われてきた一般的なeディスクバリーでは、まず目に見えるデータをどう処理する

か、どう整理するか、どう絞り込んでいくかに注力するのが一般的で、表面的に見えなくなってしまうのでデータの探索は、優先度を下げ対応されるのだそうです。目に見えないデータというのは扱いづらく、手間もかかるというのが、その理由だそうですが、我々からすると、むしろ消されたデータから調べるべきだというのが、これまでの経験から出た結論です。

なぜなら、解雇を言い渡されそうな従業員が、自分にとって不利な情報を目の前にあるパソコンに残したまま辞めていくでしょうか。当然ですが、不利な証拠になりそうなものは削除したり、記録をフォーマットし直したりと、一生懸命データを消してから辞めていくわけです。

労務訴訟で最近依頼が多いのは、未払いの残業代を請求されるケース。こういった裁判で原告から証拠

として提出されるのは、原告が自分で書きとめたメモのようなもの。これを盾に、未払い賃金を払ってくれと言われるのですが、会社側がいくらかタイムカードに残っている就業時間はこれだけだと主張しても、反証としては弱い。そうになると、やはり本人のパソコンを調べるしかないのです。

決め手がない裁判では
企業側が不利になる

パソコンのログは、きちんと復元すると、何時何分にパソコンを立ち上げ、どんなソフトを起動させ、どのような作業をしていたか、ウェブサイトで何をしていたかなど、さまざまなお知らせがわかります。

しかし、退職した従業員の使っていたパソコンは、すでに別のことに使われていたり、すでにデータが消

されていたりと、普通に調べては何も出てきません(とくに不正な勤務態度の人ほど、データを削除しています)。そういった、何も証拠がないなかで裁判を戦うと、元従業員対企業という構図から、自然と弱い立場に見える原告側を守ろうとする力が働き、結果、企業は負けてしまうということが多いためです。

事後対応でのフォレンジック費用は数百万円

我々のところに相談にくるケースというのは、こういった、普通では何も出てこない、つまり、すでにパソコン内部のハードディスクは初期化され、ソフトが再インストールされた上で、データが書き込まれているような案件がほとんどです。この場合、依頼に応じて作業を行うと、パソコン1台、単純調査でおよそ100

万円ほどかかってしまいます。

我々の調査から出てきたウェブの閲覧履歴からは、業務に関係のないサイトを見ていた時間帯や、業務時間中に組合活動を行っていた記録、あるときはアタルトサイトを見ている事実が判明したりといったこともありました。

こういったことが出てくると、元従業員の話の信憑性というものが疑われてきます。正当に仕事をしていただけだから金を払えと主張していたのに、実際には業務に関係のないことも行っていたとなると、形勢が大きく変わってくるのです。

パソコンのフォレンジック調査は、どこまでの範囲を解析するかで費用が変わります。先ほど申し上げた100万円という金額は、単純調

査の金額ですので、初期の調査で出てこないものを必要に応じて解析していくと、人件費などの追加費用が膨らんでいきます。訴訟では、相手方が主張してきたことに対して、その都度こちらも事実を調べ、反論しなくてはなりませんので、こういった対応にならざるを得ないので、その結果、パソコン1台の調査に、総額500万円かかってしまったということも珍しくありません。

利便性とともにも高まる
情報流出のリスク

昨今は、スマートフォンに代表されるような、多種多様な情報端末が増えて、それをビジネスツールとして支給する企業も多くなりました。

しかし、こういった高機能な端末の登場は、同時に情報漏洩や、不祥事発生のリスクが高まっていくことと深く関連しています。

小型でありながら膨大な情報を取めることができるものが増えたことで、紛失後のリスクは高まり、漏洩する情報の量や被害が大規模化してしまっているのです。まさに、利便性とリスクは背中合わせ。

統計的にみても携帯電話からの情報漏洩や不祥事というのは、確実に増えています。当社は10年以上前から、警察から依頼を受けて、さまざまな調査を行ってきておりますが、当社に対する捜査協力要請の増加や、その傾向から分析しても、今後スマートフォンからの情報漏洩という事態は、現実には起こり得るも

のだと容易に想像できます。

そこで、急速にシェアを伸ばしているアンドロイドOS端末のログ管理という、これまでだれも実現し得なかったサービスを、この度弊社製品を通して実現させていただきました。

「スペクタープロ for Android via メール」という、この1ライセンス、年額7875円のツールを使えば、利用者の通話やメール履歴、ウェブの閲覧履歴や位置情報、カメラ機能で撮影した写真のサムネイルなどが、管理者にメールで自動的に送られてくるので、紛失の際の端末捜査に役立つだけでなく、利用者に対して、ログ管理をしている事実を伝えることで、不正利用の抑止になる実績をあげています。

【フォレンジック費用の比較】

事後対応

● 初期費用：100万円
(保全、復元費用)

● 調査費用：
1か月当たり200万円

パソコン1台当たり
単価：300万円～500万円
(調査期間1か月～2か月)

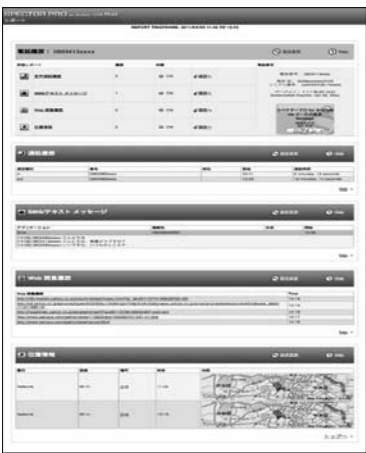
事前対応

ログ管理ソフト「スペクタープロ」
導入の場合

● パソコン100台に導入
7,000円×100台+2,000円^{※1}=702,000円

※ボリュームディスカウント適用価格の年間ライセンス
※1 メディアマニュアルの費用

パソコン1台当たり
単価：7,020円

「スペクタープロ for Android via メール」
の管理者画面

利用者の端末から定時に自動で送られるレポートメールは、同ソフトが備えるメール機能を使って送信するため、利用者のメールソフトには形跡が残らない